



## インバウンドに思う

### インバウンドの威力を実感

今年の桜は早めでした。4月30日に五稜郭公園と函館公園に行ったのですが、どちらも満開。春が一気にやってきましたという感じがしました。

それにしても人の多いこと。とくに五稜郭公園では外国人観光客の多いことに驚きました。昼も2時を過ぎていたのに、タワー前交差点にあるラーメン店、ファストフード店は角を回り込むほどの長蛇の列です。列から聞こえてくるのは元気のいい中国語。並んでいるのはほとんどが日本人以外の人々でした。

10年近く前になりますが、私が旅行者として函館に来ていたころには遭遇しなかった光景です。市民になった今もインバウンドとは無関係な仕事をしていますから、普段はその経済効果を実感することは皆無ですが、観光地にとって、

それがいかに大きいのかを目の当たりにしました。

当然、スタッフの増員も必要でしょう。「観光業は人手不足が深刻」というニュースの文句にも、突如納得感を覚えました。

### アジア諸国の富裕化と日本

五稜郭公園では民族衣装のアオザイを着たベトナム人女性が、満開の桜の下を優雅に歩いている姿を見かけました。函館でも急増する外国人観光客。中国系のみならず、ベトナムほか、タイやマレーシアからの観光客も少なくありません。失礼な言い方かもしれませんが、まさかこんな時代が来るとは、というのが正直なところです。

私は1990年代の後半、よくアジアを旅していました。当時もシンガポールを筆頭に、タイ、マレーシア



お昼時をとうに過ぎても、交差点の角を回り込んでまで順番待ちの列のできるファストフード店。客の多くは外国人旅行者

は成長のさなかでしたが、ベトナムは華々しく登場した経済開放政策「ドイモイ」も試行錯誤の状況でした。首都ハノイにも靴磨きや絵はがき売りの少年がたくさんいて、外国人旅行者に執拗に売り込みをかけていました。世界最貧とされた「1人当たり年間GDP200ドル」というレベルをようやく脱したところで、外国人が利用するホテルにはベトナム人は立入禁止、ということでもない規制がまかり通っていました。

中国にしても、ようやく改革開放路線が緒に就き始めたところで、成長の最前線だった広州でも、マクドナルドの客は、廉価メニューのアイスクリーム一つで長居する家族連ればかり、という状況でした。

そのころのアジア各国では、金持ちニッポンからの観光客は、とびきりの上得意様であり、行く先々で土産品や観光サービスのセールス攻勢が待ち構えていました。今ではそれが見事に逆転したというべきか、日本人が、外国人観光客の消費に期待を寄せる時代になりました。

### 「二つ間違えば拝金主義

日本企業は、安い労働力を求めて海外に工場を展開しました。国内で

産業の空洞化が進む一方、工場を受け入れ、一生懸命働いたかつての途上国は、経済力を蓄えました。1990年代の後半から20年で起こった鮮やかな逆転劇は、その当然の帰結かもしれないません。

日本にきたいという外国人が増えているのは嬉しいことですし、そのおかげで産業の空洞化の穴埋めもできる。何ら異議なしではありますが、ちよつと気になるのは、観光振興の文脈の中で、「富裕層向けの旅行商品」なるものが、近ごろよく話題に上るようになったことです。

もっともらしい言葉のようですが、こういう商品が登場し話題になるということは、「お金持ち大歓迎」と言っているに等しいわけです。ホントはそうかもしれないませんが、露骨すぎやしませんか。「おもてなしの国」日本としては、お金を落とさない人も大歓迎といきたいところです。

### ★プロフィール★

おおにし つよし  
**大西 剛さん**

1959年生まれ、大阪出身。  
2011年秋より函館に移住し、「新函館ライブラリ」を設立。  
通り一遍の観光客ではなく、コアな函館ファンに訴えるような函館本の出版に取り組むほか、函館のブランド力に頼らない出版企画も模索中。